

FES (Food Education Supporter)

～食育応援隊～

教育・研究

ボランティア

地域交流

代表者：農学部生物生産科学科 3年 小川 真澄

連携先

JA茨城かすみ
青田 洋一様 (食育担当)

阿見町教育委員会
菅谷 道生様 (阿見町教育長)

阿見第一小学校
和田 和彦様

阿見第二小学校
松本 貴子様

阿見小学校
篠崎 博明様

本郷小学校
根本 正様

舟島小学校
宮本 好弘様

君原小学校
白戸 文男様

吉原小学校
池田 直哉様

実穀小学校
山本 光明様

顧問教員

安江 健 (農学部・教授)

参加者

小川 真澄 (農学部生物生産科学科 3年)
寺本 朱里 (農学部生物生産科学科 3年)
黒澤まりな (農学部資源生物科学科 2年)
渡邊 明花 (農学部資源生物科学科 2年)
吉田 健人 (農学研究科地域環境科学
専M2)

プロジェクトの概要

阿見町では、町内8校の小学校に対し、食育事業が行われている。茨大農学部生もサークル活動を通じ、2014年度まで支援していた。しかし、そのサークルの撤退により、食育事業の縮小を余儀なくされてしまった。そのため、2014年度に設立された本サークルが食育活動を支援するようになった。本プロジェクトでは、阿見町の食育事業に参画し、小学校の総合的な学習の時間等の栽培活動を支援するとともに、食育推進に貢献する。プロジェクトの目標は3つあり、1つは阿見町の食育に参画し、小学生に食や農業に関心をもってもらうことである。

2つめは、町内8小学校で行われている食育事業を支援し、さらに充実した食育活動が行えるようにサポート、役割分担することである。3つめは食育通信を毎月発行し、食育授業を一時的な体験活動で終わらせず、継続的に興味を持ってもらえるような情報発信を

することである。本プロジェクトの最終的な目標は、小学生に学校での食育授業や我々が発行する食育通信を通じ、普段口にする給食などの食べ物に興味・関心を持ってもらう事である。そして、ゆくゆくは、小学生を中心として阿見町全体に食育の環が形成されることにある。阿見町を全国でも有数の食育が盛んな町にしたいと考えている。



トウモロコシの収穫（阿見小）

活動日程は基本的に小学校の予定に合わせるため、当日授業が入っていないメンバーが小学校に行き活動することになる。なお学校とメンバーの予定はJA茨城かすみの方々が取り仕切ってくれている。年間目標は年度終わりのミーティングで個々に反省点や、その改善点などを話し合い、そのうえで次年度の活動目標を立てている。また、週間のミーティングをすることで、食育通信の内容の向上などを図ったり、改善点を挙げて次回の活動に生かしたりしている。連携先の小学校とは年度の始まりに、JA茨城かすみの方々と交えた会議を行い、1年を通じた食育活動の概要を話し合っている。連携先の小学校での活動の際は、毎回、各先生方に挨拶をし、メンバーの顔や食育活動していることを覚えてもらうように努めている。

プロジェクトの成果報告

阿見町の食育に参画し、小学生に食や農業に関心をもってもらうことができた。また、食育通信を毎月発行し、食育授業を一時的な体験活動で終わらせず、継続的に興味を持ってもらえるような情報発信をすることもできた。小学校の総合的学習の時間でJAの方が行う授業に学生が参加し、学生の視点から「食」に関心を持ってもらうような授業を行った。食育に関する企画しているサークルは他にもあるが、それは自由参加のものであり、学校外のもので行われている事が多く、食育に関心の強い児童や家庭でなければ参加しないと考えられる。しかし、小学校の授業時間内の食育授業は、児童全員が参加するため、あまり関心のない子供たちにも興味をもってもらうきっかけ作りができたと考えられる。さらに、食育通信の発行を行ったことで、その効果を家庭にまで波及でき、家族ぐるみで「食」への関心がわき、学校での食育に関する話題提供にもなった。食育通信は、阿見町の特産品であるヤーコンについてのメイン記事と、月々の旬の食材などに関する記事についてまとめており、児童だけではなく大人が見ることもできる内容にしている。今後の食育通信は、毎月同じ構成の記事にせず、柔軟な思考でわかりやすく作成したい。



9月の食育通信のようす

他には、農協・教育委員会・茨大生で行われている食育事業に、農家の方々など様々な立場の人々に関わっていただけるような取組を主体的・側面的に支援したいと考えている。来年度も力を入れたいのはサークルの人材確保である。現在のメンバー数では、食育通信作成時にフットワークが軽いといった面がある一方、一人ひとりの負担は大きくなってしまふ。そのためにも来年度からは、SNSなどを通じて、サークルの活動内容を学外にも積極的にアピールしていきたい。また、今年度の活動は、学校でメンバーが授業を行うなど自発的に活動することもあったが、基本的にはJA茨城かすみの方々からの指示を受けてから行動する形が多かったので、「食」に関心を持ってもらうために、こういう活動をしたらどうかといった自分たちの意見も積極的に話していきたいと感じた。



ヤーコンに関する授業の様子